

よえもん

-yoemon-

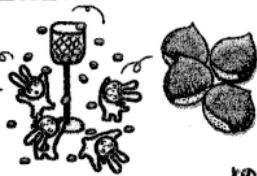
2014年9月 第17号

今月のことば



シリーズ
よえもん

母をむかえに



大洲で おじいさんと おばあさんに

死に別れ、小川村のお父さんも亡くしたよえもんさんは、お殿様から、おひまをもらって、ふるさとへ帰りました。よえもんさんの妹の葉もおヨメにいて、葉は一人で、たまごご飯を食べていると3でして、よえもんさんは、どうにかして、母を大洲へ連れていき、一緒に暮らしたいと真心をこめて、お願いしました。ですが母は、

「よえもん、お前の気持ちはとてもありがたいのですが、私は小川村を出て知らない土地で暮らせません。どうか、年寄りのわがままで許しておくれ。」と言って、どうしても承知しませんでした。よえもんさんは、とほうにくれて、

「このまま小川村にいては、お殿さまに仕えられないし、母を残して帰れば、修行をつくすことができない。困ったことだ。」と気持ちがいじみしました。

よえもんさんは、しがたなく大洲へ帰るとらおう、とつぜん激しいぜん意の製作におそわれました。それから、よえもんさんは、この病気に苦しむことになるのです。

良知天然の
師にて候へば
師なしとてても
不苦候

書・洲田瑞穂さん
出典・中江藤樹の書簡並和歌

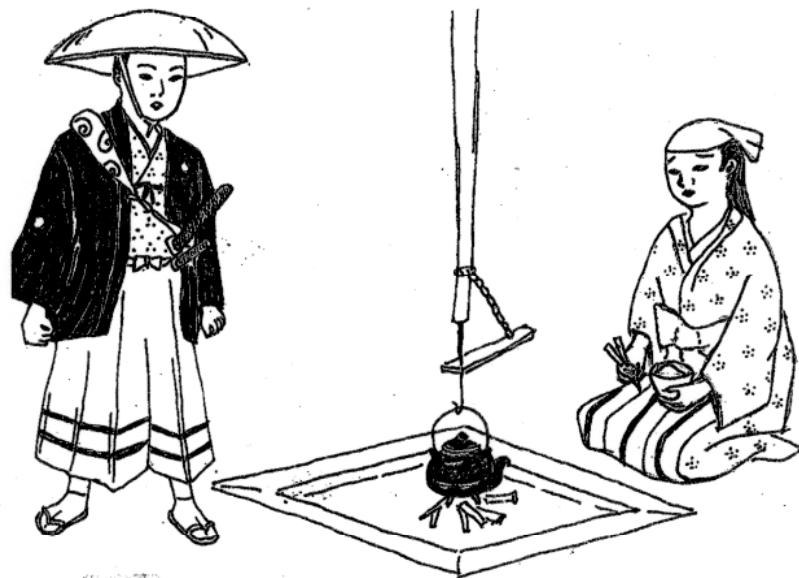
「良知は誰もが生まれながらに持つ先生であるから、実際の先生がいなくても、全く問題はない。」という意味です。

これは、森村伯仁という門人への手紙の中の一節です。少し極端に思えるかもしれませんが、藤樹先生は、書物から得る知識よりも、誰もが持つ良知の正しい判断力こそ、絶対的な信頼をよせているのです。本を読むだけではなく、よいじを身につけておきたいものです。

記念館さんぽ

セミとトンボが飛んでいる、初秋の陽明園では、お花も夏のサルズベリ(ピンク)と秋のヤブラン(むらさき)が咲いています。まだ日差しは強いですが、木陰に咲くヤブランをお散歩がてら、見に来て下さいネ!

9月25日には、藤樹先生の命日ということで、神社や書院で祭典が行なわれます。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川市上小川69 TEL/FAX (0740)-32-0330